特集　教育・協同を考える／地球の子どもの家

学校の外で成長する子どもたち

松元　成一（東京都／地球の子どもの家 府中・代表）

地球の子どもの家について

地球の子どもの家は1988年東京・府中市に開設し、主に学校に行かない子ども達が活動する場所になっています。野川公園という大きな場所に隣接し、静かで空気も良い環境に恵まれて子ども達は本当に元気良く遊んでいます。毎日9時から11時位に通って来て午前中は勉強・絵画・ゲームなど主に屋内で活動します。昼食の後、全員で集まり提案をしたり話し合ったり計画をたてたりします。午後の事も話し合った上、午後の活動に移ります。主に公園でスポーツ、散策、サイクリング、自然観察など屋外で活動しています。又、いろいろな場所へ出かけます（言わば社会見学）。図書館、市役所、市場、体育館、近くの山川、登山、ハイキング、博物館、展覧会、小旅行と様々です。殆どが子どもの発想や提案によるものです。自分達のアイデアが実現していく（実は簡単な事ですが）のですから、子ども達は本当に自発的にむしろ自然に色んな情報を集めてきます。それだけでも子どもにとっては成長の糧となると思います。地球の子どもの家では、子ども達の活動・成長を助けるという意味でおとな達のことを「アシスタント」と呼んでいます。より力や経験・知識のある者が安全を確保したり全体の調整をしたりするわけです。伸び伸び活動する子ども達とともにおとなも自分自身を発見し再認識し元気になっていく事は本当に楽しいものです。アシスタントといいながらもおとなも自己実現し成長していける場なのです。従って多くのボランティアの方々が集まり支えてくれています。書道、パン作り、絵画、パソコン、料理、農作業、英会話、音楽活動などの活動が実現しているのです。月1回土曜日の夜「夜咄しの会」という催しも開いています。夕食会（様々な国・地方の料理）の後、ゲストの話しを聴きます。テーマは自然、世界各国の事、公害、薬害、差別、食べ物、農業、海など多岐に亘ります。コンサート（世界中の楽器、歌、踊りが紹介されました）になる時も度々です。夜咄しの会は誰でも参加できます。様々な方々をゲストとしてお呼びしたいと思っています。地球の子どもの家はこの様な活動をしながら沢山の人達が交流できる場になりつつあります。障害、性差、人種、政治、宗教、国家といった全ゆる垣を越えた所で人々が交流し、そこに子ども達も居て自然に社会や世界を感じとる事ができるのです。教科書やガイドブックで理解できる事には限界があります。人間から生きた体験談を聴く事により鮮明に身体の内側に感じ取る事ができるのです。それによってエネルギーが湧きそれを使用する事が人間の活動となるのです。そして成長します。

公教育はどうか

ちょうど戦後50年の昨年あたりから現在の日本がもつ矛盾が顕著に現れ始めています。阪神淡路大震災に始まり住専問題、薬害エイズに至るまでこの1世紀の間、日本社会が何をしてきたのか、その功罪を問い直す現象が続いています。その中でも「いじめ」「登校拒否」に代表される学校の中で起きていると言われる（報道されている）問題

EARTH KIDS' HOUSE
ルナな学校
ちきゅうの子どもの家
TOKYO JAPAN
THE EARTH KIDS' HOUSE
地球の子どもの家
TOKYO 東京都府中市多磨町2－51－7
〒183　TEL・FAX (0423)62－8048
SIMOJO 長野県下伊那郡下條村睦沢4767－1
〒399-21　ハウス (0260)27－2926
TEL・FAX エコハウス (0260)27－3014

について述べます。愛知県で大河内清輝君が自らの生命を断ってから一年以上経過した今も解決策は講じられていません。被害者は増える一方と言ってもいいでしょう。私達一般人はそうした事実について新聞・TVなどのマスメディアで知るしかないのですが、その報道の中で必ず言われる事が学校・教師へ向けられる「解決方法はないのか、努力しているか、知っていたのか」という学校責任論です。学校の中で起きている事は確かですが、本当に学校現場だけに問題は収束されて良いものでしょうか。そうではない事に多くのおとな達は気づいているはずです。学校のみに責任を押しつけるやり方の裏に存在するものは、子ども達が学校に持ち込む問題の責任の所在が学校外の社会にある事から免罪したいとするうしろめたい感覚だと思います。戦後民主教育の名のもと、点数・テスト・偏差値主義に企業と関係を持ちながらひたすら子ども達を競争させてきた公教育です。しかし、学校の「いじめ」「自殺」「登校拒否」問題を憂う今のおとな達でさえその競争の渦中にかつており、苦しみ傷ついてきたはずです。でも、その自分達の傷の部分には言及する事なく、「今の学校」「今の子ども」という言い方に固執し問題の本質を問い解決しようとはしないのです。

学校に行かずに公教育を否定することによって社会性や協調性が身につかず、社会に出た時に困るのではないかという質問をよく受けます。まるで反対でしょう。学校から離れ元気に活動している子ども達は電車に乗り目的の場所へ行き様々な人々の人間模様を見聞きしているのです。もう既に社会に出ているわけですから社会性など自然に身について来るというものです。むしろ公教育の現場は子ども達を同年齢の集団に押し込めており、教師対児童の単一の関係しか存在させていません。子ども達を煽り強制し競争させ、他人の傷みや苦しみ喜びを理解することをできなくしてしまっています。社会性がどうやって身につくというのか。私も受験勉強に身をやつし苦しみ抜きました。そして人を出し抜いて行く事に疑問を持ちました。その嫌な気持ちは今も忘れる事ができません。そうした苦しみを殆どのおとな達が学校時代に体験しているはずです。忘れてしまったのでしょうか。比較されながら勉強する事の空しさや競争の悲劇を又自らの子ども達に強いていることに気がつかないのでしょうか。

してみると公教育の目的は別の所にあり、子どもの側に立っているとは思えないのです。

今ある社会＝人間の存在基盤である大地（地球）を傷つ続け持続不可能な環境を実現させてしまう社会を持続させる為に子どもを「教育」しようという目的を持ってしまったのです。全くもって滑けいと言わざるを得ません。

何が大切か

社会は矛盾が噴き出し本当に解決の道へ乗り出さねばならないと皆が言い始めてはいます。毎日の様に教育・環境・原発・医療・戦争の事などがマスコミを賑わし、街中でも誰でもが話題にする様になってきました。しかし子どもの問題は学校の中に押し込め、学校からはみ出す事は問題であり症状であり又かわいそうな事とする風潮は全く変化する兆候を見せていません。

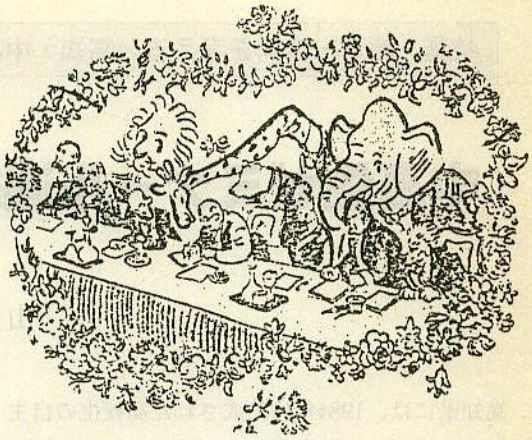
大切な事は何百万年か続いてきた人間社会を地球環境とともに継続させていく可能性をもつ者が子ども達なのだという事、次代を間違いなく子ども達は担っていかなければならないのだという事です。この事を社会総体で認識し問題点を協議しなければならない時が来ているのです。そのことが今の社会を変え得る社会を作る契機＝エネルギーになるのです。教育専門家・学者・心理学者だけに任せてはいけません。一人ひとりのおとなが考え参加しなければ意味はないのです。この地球上に子育てを大切にしない生物など存在するでしょうか？　この地球上に生きる全ての人間にあてはまる事が子育てです。人間達もつい数世紀前まではその事を大切に生きていたのではないでしょうか。第一次産業を見捨て物の生産活動に走り消費社会を築こうとした時からセクショナリズム・ナショナリズムが拡大した末、子育てが教育部分という枠に入れられ学校という専門分野に閉じ込められたのです。そして軍国主義的教育が始まったのです。その遺物は今も学校に存在します。朝礼台・制服・給食・ランドセル・国旗掲揚台などです。そのままの過去の遺物が残されたまま子ども達は競争を続けさせられている訳です。

そうした事を早く中止し、ひとりひとりを大切にするゆっくりとした気持ちの良い社会を作っていかねばならないのです。地球の子どもの家ではひとりでも多くの子どもに将来に夢を持って伸び伸びと成長してほしいと願っています。

学校の外へ出て学校外で活躍している皆さんの力を子ども達に貸してあげましょう。

―― ご相談下さい ――

○地球の子どもの家・府中　年齢：6～18歳
○地球の子どもの家・下条　年齢：15歳以上
　見学・体験入学もできます



動物会議

「動物会議」は「地球の子どもの家」の応援団です。

子育てまっ最中の親たちを中心にすでに子育て卒業の先輩たちや、これからたぶん経験することになるであろう後輩たちみんなで助け合おうと志しているグループです。

「動物会議」は1990年４月から活動が始まりました。この５年間にのべ250人の方々から援助をいただいてまいりました。

〒183　府中市多磨町２－51－７
「地球の子どもの家」気付
〈ＴＥＬ．ＦＡＸ〉0423－62－8048